

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第26回 海の100選

日本銀行仙台支店長 岡山 和裕



色んなところを巡っていると、人間の生活は自然環境に大きく左右されていることを痛感する。

例えばであるが、昼間の時間は「夏至」と「冬至」でどの程度違うかご存知だろうか？ 仙台を例にとると、夏至の昼間は14時間50分、冬至の昼間は9時間30分で、何と夏至と冬至では5時間20分、24時間の1/4弱違うのだ。

こんなことを考えながら、色んなところを巡っていると「日本の夕陽百選」を見つけた。夕日がいっぱいある場所が選定されているが、東北では圧倒的に西の日本海側が多い。太陽は西に沈むので、当然と言えば当然。

これを知ると、指定されている場所に行きたくなった（笑）。山形県では、海岸や海岸沿いの小高い公園、離島が指定されている。複数の場所に日の入りの時刻に合わせて行ってみた。そうすると、日の入りの少し前から空や海の色が刻々と変化する。夕日に照らされる風景が何とも素晴らしい。そして、波音にも癒される。

その時にあることに気づかされた。昼間が長い方が、外の行動には適しているのに、冬の間は効率的に行動することが求められる。もっとも、考え方を変えれば、それほど朝早く起きなくても「日の出」を見ることができ、夕食の時間を遅くしなくても「日の入り」を見ることができる。発想の転換だ。

夕陽百選巡りをしていたら、次は何と「日本百名山」なるものを発見。見つけたのは岩手県釜石市の根浜海岸。10月、11月にだけ生産される「甲子柿」を買いたくて、釜石に行ったのに合わせて、釜石の海岸にあるお宿に泊まったからだ。外は真っ暗な中で波音を聞きながら、月を眺めることができる。何とも最高のロケーションである。宮城県では松島、岩手県では根浜海岸と梶鼻溪、山形県では蔵王連峰、肘折温泉が指定されている。これらの場所は、振り返ると全て行っていた。「〇〇100選」なるものを見つければ、通常は行っていないところがあるため、「宿題」が増えるのだが、

今回は「宿題」は増えなかった。良かったあ！（笑）

そして、とても感動的だったのは、「日本の渚100選」に選ばれている気仙沼の「十八鳴浜」。何と読むかと言うと、これで「くぐなりはま」とのこと。というのも、ここの砂浜は石英が多く含まれていて、踏んで砂に力が加わると、「きゅっ、きゅっ」という音が鳴るのだ。「十八鳴浜」の表記は、砂浜を踏む音から「九+九=十八」と付けられたらしい。何とも風情のあるネーミングではないか。

ここの砂浜は海岸線からは行けない。このため、近くから一度小高い丘を登って、砂浜まで下っていくのだ。そこそこの運動だ。汗をかきながら、砂浜に向かって行って林を抜けると、人の手が加わっていない、本物の自然が広がっていて、独り占めできるのだ。

そこに一人で景色を見ながら波音を聞いていると本当に穏やかな気持ちになる。

地球温暖化の影響で海水温が上昇し、獲れる魚種が大きく変わっている、あるいは減っているというニュースをよく目にする。

また、海は様々な災害をもたらしている。

でも、自然とはそういうものだということを十分に肝に銘じて、そして自然の恵みを享受できる喜びを感じ、自然の恵みを継続させる取り組みが必要だということを痛感した。

この話を知人にしたところ、「随分、センチメンタルな気分になりましたね」と言われた（笑）。皆さんも経験してみてもはどうだろうか？

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ

兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任